大学基準協会 高校教員のための大学進学セミナ-

高大接続改革が大学教育と 入学者選抜に与えた影響

一 大学入学共通テスト導入と その後の動向 一

2024年9月28日 15:10~15:45

沖 清豪

(早稲田大学文学学術院)

okikiyo@waseda.jp



本報告の骨子

- 1. 過去を確認する: 高大接続改革が求められた背景としての社会と学生の変容の確認
- 2. 現在を確認する: 2010年代後半からの大学教育と入 学者選抜改革の動向整理
- 3. 近い未来を展望する: 2020年代後半の入学者選抜 改革を考えるための論点整理

過去を確認する

高大接続改革とは何であったのか?

高大接続改革 3つを同時並行で実施

高校教育改革

入学者選抜改革

大学教育改革

高大接続改革はなぜ必要だとされたのか?

- ▶高校教育への疑問・不満
- >入学者選抜への疑問・不満
- >大学教育への疑問・不満



本報告はこの2つに焦点

- ▶こうした疑問や不満の背景…ミスマッチ (何と?なぜ?)
- ▶改革として、①何が行われるべきとされたか? ②何が行われたか? ③何が行われなかったか?

高校から大学への移行(transition)への注目 理想と現実との相克

高校教育(学習)から大学教育(学修)への移行

	高大接続改革とは関	高大接続改革に基づく
	係性の低い入試改革	入学者選抜改革
高大接続改革に応 じた高校教育改革	移行に注意	移行がスムーズ
従来からの入試対策 と高校教育	移行への関心低い	移行に注意

ただし入学者選抜をめぐる議論の前に… 過度に一般化した議論は危うい(できない)

高校は一枚岩ではない

- 伝統的学力重視の進学校
- 新しい学力観に対応した進学校
- 一般選抜以外のルートを重視する進 路多様校
- 大学進学希望者増の専門高校
- 公立・私立・通信制高校、等

大学も多様化が進行

- 国際化・研究志向の国立大学
- ・ 地域連携重視の(地方)国公立大学
- ・ 伝統的学問枠組や専門職業人養成の資格枠組に基づいた大学・学部
- 新たな社会ニーズに合わせた大学
- 小規模地方(私立)大学、等

入学者選抜改革と並行した「制度改革」

高校

- グランドデザインの設定
- スクール・ミッションの設定
- スクール・ポリシーの設定
 - ・グラデュエーション・ポリシー
 - ・カリキュラム・ポリシー
 - アドミッション・ポリシー

大学

- 理念(ミッション)の提示
- 3つ(+1)ポリシーの設定
 - ・ディプロマ・ポリシー
 - カリキュラム・ポリシー
 - ・ アドミッション・ポリシー
 - アセスメント・ポリシー

入学者選抜をめぐる議論の前に… 「制度改革」に基づく理想的な「接続」

高校:GPに合致した高校生を育成+大学APに

対応した試験準備

高校生:CP・DP・ミッションで大学選択+APを

意識した試験準備

大学:APの設定+APに基づく選抜実施(+ 学力3要素の適切な確認)

合格後:入学前教育・(入学後の)初年次教育

を通じた大学教育への移行支援

入学者選抜をめぐる議論の前に… リアルな「接続・移行」問題

高校:GPに合致した高校生を育成+大学APに

対応した試験準備

高校生:CP・DP・ミッションで大学選択+APを

意識した試験準備

なんとなく

進学して留

年・中退…

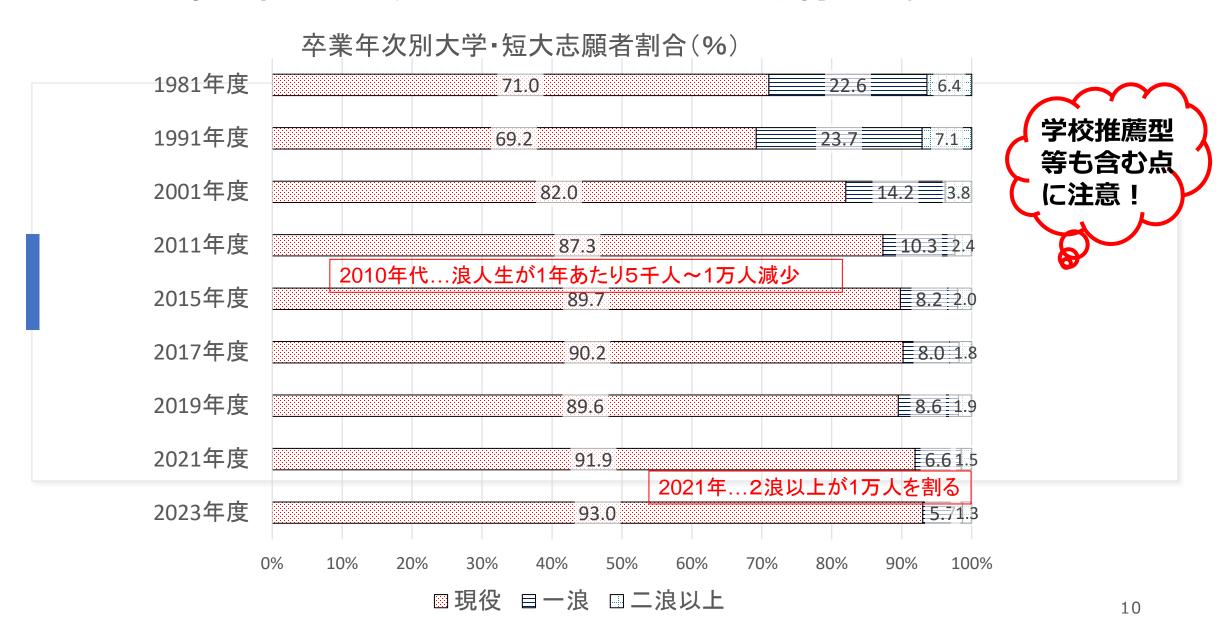
大学:APの設定+APに基づく選抜実施(+ 学力3要素の適切な確認)

合格後:入学前教育·(入学後の)初年次教育 を通じた大学教育への移行支援 志望大学より 偏差値… 年内に進路 決定…

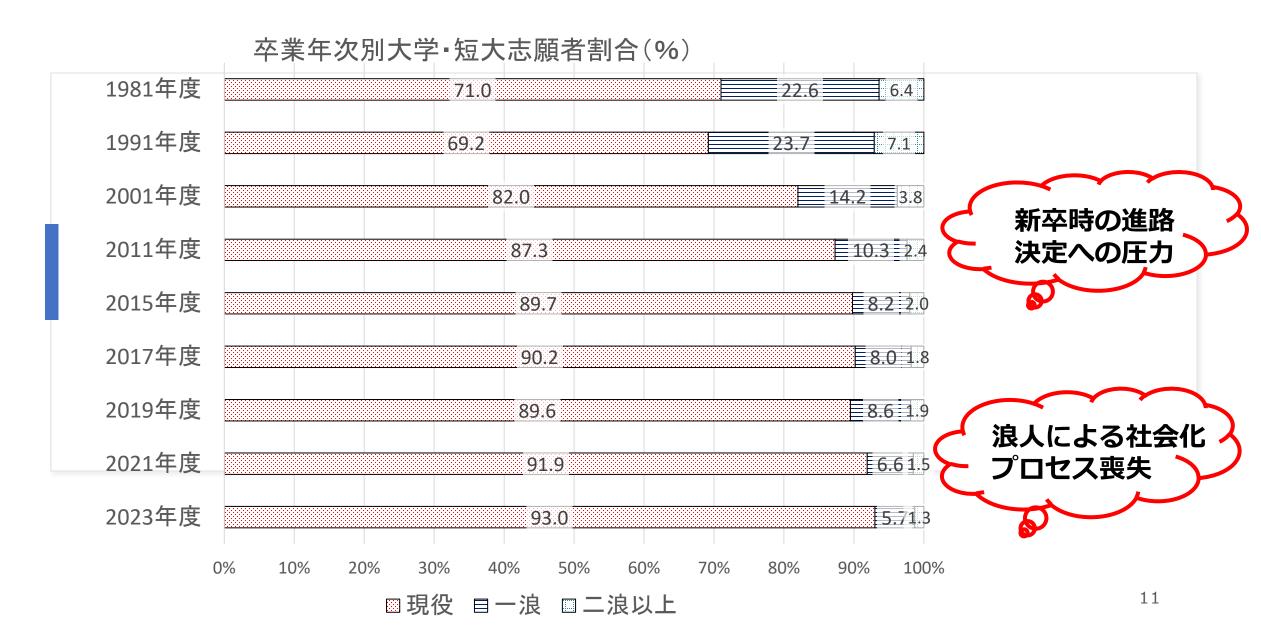
> まずは定員 充足!…

探究よりも基礎学力…

新卒・浪人にみる志願者像の変容

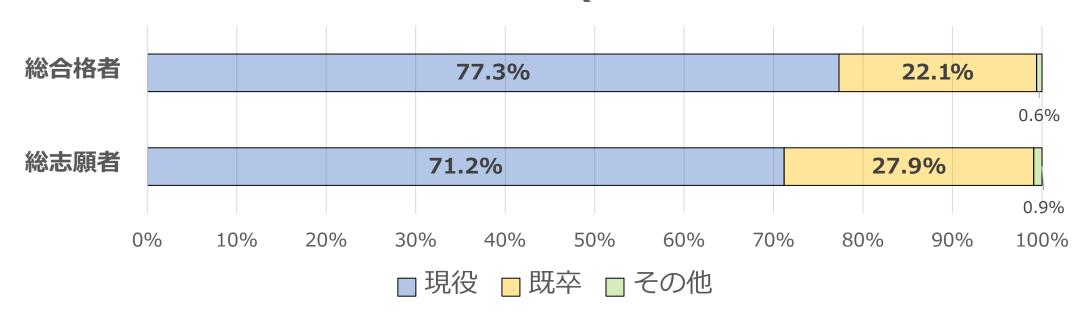


新卒・浪人にみる志願者像の変容



ご参考: 早稲田大学の場合

一般選抜(共通テスト利用除く)の現役/既卒別志 望者数・合格者数(2024年度)



過去25年における入試と大学改革の論点

- ▶1998年~ 大学入試をめぐる公平観の転換やCBT導入をめぐる議論(大学審、中教審)
- ▶2000年代前半~ 学生像の変容・大学教育の質保証に対応した初年次教育、リメディアル教育の導入(教育改革)
- ▶2008年頃 集団準拠(偏差値重視)型テストから目標準拠型 の達成度テストへの転換を議論
- ▶2013年頃~「入学者選抜制度全体」の改革と**教育改革**
- ▶2018年頃~「個別大学」における入学者選抜改革と**教育改革**

変化の背景 論点の整理

- ▶2013年~ 高大接続改革
 - ← なぜ改革が求められたのか?…20世紀末からの変化
 - ← その狙いはどの程度実現したのか?

変化したのは 高校教育? ■ 生徒・保護者?

■ 学生?・大学? ■ 社会?

【高校教育】新学習指導要領を踏まえた教育 課程改革を入学者選抜から捉えると…

- ① 原則:「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に 学習に取り組む態度」をすべて重視
- ② 「主体的・対話的で深い学び」を進める(総合的な探究の時間)
- ③ 科目や内容としてのSTEAM+文理融合(としての情報I)+地歴公民改革+外国語教育重視
- ④ 共通テスト改革への影響(出題傾向の変化)
- ⑤ 英語四技能重視、記述式出題の重視(論文か、短文形式か、非選択式による深い思考力や表現力の確認か)

【生徒・保護者】大学進学をめぐる志向を考えると…

- ▶現役大学志望率自体は従来の55%前後から60%前後に上昇(限界か?)
- ▶特に首都圏以外の地域における地元大学進学志向
- ▶一般的な高校生・保護者にみられる安全志向としての総合型選抜・学校推薦型選抜シフト
- ▶一般的な高校生にみられる学力選抜回避
- > 今後の高等教育無償化の影響は未知数

【学生】大学生像の変容(M.Trow)

20 c 中盤(~15%) → 20 c 終盤(~50%) → 21c~(50%~)

エリート型

指導者育成

自律·自由

学術·教養

マス型

中堅市民育成

現場の管理職

学術・教養+職業

ユニバーサル型

一般市民育成

多様な職業・キャリア

職業·教養重視

同一大学内に混在

変容する学生像が入学者選抜に与える影響

20 c 中盤(~15%) → 20 c 終盤(~50%) → 21c~(50%~)

エリート型

指導者育成

自律·自由

学術·教養

マス型

中堅市民育成

現場の管理職

学術・教養+職業

ユニバーサル型

一般市民育成

多様な職業・キャリア

職業·教養重視

知識重視、高倍率、相対評価

学力3要素、推薦、時期前倒し

||一大学内に混在

18

【大学】学生像の変容に伴う大学教育の変容

2000年代 から全世界 で転換

従来の大学像

- ・ 学問(discipline)に基づく教育 課程編成 + インプット・アウ トプット重視
- ・研究・学術的専門性重視の講 義の下、学生が自由な環境で 自然に育つ場所 から

21世紀の大学像

- ・21世紀型スキル(コンピテンシー、ジェネリック・スキル)重視+アウトカム重視
- ・目的を明確にした教育・ゼミ を適切に行って、その成果を 明示できる教育機関 へ

どれだけ学んだか?

何ができるか?

【社会】大学に対する社会からの要請

大学教育の前から…

- ▶社会人基礎力・学士力の習得
 - ▶ コミュニケーションカ、主体性、リーダーシップ…

大学教育の前から…

- ▶STEAM、文理融合型人材(AI・DXの進展に伴う)
 - ▶全員とは限らないが、中核人材には求められることに

学力の3要素の第3

- ▶求められているのが「出過ぎた杭」か「協調型人材」かは依然として混乱、しかし
 - ▶「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」は有効だとされている

現在を確認する 1入学者選抜

高大接続改革の結果の整理

	大学入学共通テスト関連	高大接続改革全般
A 実際に導入された もの	要領対応)	③調査書のフォーマット修正 ④総合型選抜・学校推薦型選抜:日 程変更+学力3要素の1重視 ⑤一般選抜:学力3要素の2,3重視
B 実施直前になって 導入が断念されたもの	①外国語(英語)における民間4技 能資格試験の利用 ②大学入試英語成績提供システム ③国語・数学での記述式問題の出題	④主体性評価に関するJeP(Japan e-Portfolio)の導入
C 議論の途中で導 入が断念されたもの	①共通テストとしての基礎レベル試験②共通テストの複数回実施③共通テストの試験時期の前倒し④共通テストへのCBTの導入	⑤個別試験(一般選抜)の開始日 程前倒し ⑥調査書の電子化

大学入学共通テストの導入

- ・目的「高等学校の段階における基礎的 な学習の達成の程度を判定し,大学教 育を受けるために必要な能力について把 握する」
- ・新学習指導要領に合わせた諸改革
- 出題方針
- 情報Iの導入
- ・ 地理歴史・公民(科目編成、選択の組み合わせの改革)
- 英語「リーディング」「リスニング」

- 近代以降の文章(論理的な文章や実用的な文章,文学的な文章),古典(古文,漢文)を題材とし,言葉による記録,要約,説明,論述,話合い等の言語活動を重視(国語)
- 日常生活や社会の事象など様々な事象を数理的に捉え,数学的に処理できる題材,教科書等では扱われていない数学の定理等を既習の知識等を活用しながら導くことのできるような題材(数学)
- 日常生活や社会の身近な課題等について 科学的に探究する問題や,得られたデー 夕を整理する過程などにおいて数学的な 手法等を用いる問題(理科)

大学入学共通テストの成績の段階表示の導入

- ➤スタナインによる得点の9段 階表示
- ➤受験者内の相対評価による段階表示
 - ▶活用方法は多様
 - ▶同一得点が同一教科の科 目間で2段階異なる事例も

- ▶導入済み 静岡理工科大
- ▶2025年度選抜からの利用 徳島大・鳥取大
- ▶2026年度選抜からの利用 **千葉大**

調査書の「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」記載をめぐる改革と再改革

▶2021年度~24年度は調査書 「特別活動の記録」「指導上 参考となる諸事項」欄に詳細 な記述必要

▶2025年度選抜の調査書から 再々改訂(○×表記、要点の箇 条書き等) …総合型選抜での 活用は可能か?

改革議論で出された意見

- ▶ できる限り高校の日常での学習を評価すべき(詳細に記入するのを高校も建前として歓迎)
- ▶ 高校教員の業務負担増大(反対)
- ▶ 内容によっては教員間での記入内容格差で合格に影響する? (疑念)
- ▶ 大学にとっては詳細なデータがあれば合否判定の根拠になる(歓迎)
- ▶ 大学にとってすべての情報が合否で必要とはいえない (疑念)
- ▶ 教育評価として当然詳細に書くべき(カリキュラム・教育評価の研究者)



総合型選抜・学校推薦型選抜における知識・ 技能の評価

▶総合型選抜における知識・技能の評価…資格試験の活用、大学独自の試験、一部大学(主に国立大)における大学入学共通テストの利用(スケジュールの問題で私立利用は困難)

▶学校推薦型選抜における知識・技能の評価…資格試験の活用、 大学独自の試験、大学入学共通テストの利用

事例:横浜国立大学教育学部総合型選抜における大学入学共通テストの利用

- ▶第1次選抜 自己推薦書、調査書、課題レポート、小論文 試験
- ▶第2次選抜 個人面接
- ▶最終合格者決定 大学入学共通テストの成績で選抜
 - ▶定員未充足の場合は一般選抜合格者で充当

事例:早稲田大学地域探究・貢献入試(総合型選抜)における大学入学共通テストの利用

- •1次選考(書類審查)
- 2次選考 (総合試験)
- 最終合格(大学入学共通テストの成績が3教科 80%以上)

事例:金沢工業大学学校推薦型選抜における 基礎学力テストの利用

- 推薦型A(公募型)等
- ・学校長推薦に基づく、全国17試験場での試験
- 特別奨学生制度対象入試
- 11月中旬に数学I・A、英語(コミュニケーション英語I)、国語(古文・漢文除く)の「基礎学力試験」を実施し、その2教科の点数と面接、調査書を得点化し、推薦書、志望理由書等とで総合的に合否判定
- 「基礎学力試験」の問題例公表…到達度の確認が主目的

事例: 一橋大学の学校推薦型選抜における大 学入学共通テストの利用

- ・商学部、経済学部、法学部、社会学部、ソーシャル・データ サイエンス学部の第1段階選抜において大学入学共通テストの 得点を利用
- 一般選抜前期日程試験出願者の第1段階選抜における上位相当 (順位は学部によって異なる)の得点以上であった場合に合格
- 第2次試験は小論文と面接

事例:早稲田大学の指定校推薦(学校推薦型選抜)における大学入学共通テストの利用

- ▶大学入学共通テスト「英語」、「国語」、「数学I,数学A」 の受験が必須(入学手続き時に関連書類提出)
 - ▶国際教養学部を除く、全ての学部
- ▶<u>合否判定には用いない</u>(入学後の教育・指導における参考資料として扱う)
- ▶1月中旬まで基礎教科に関する学習の継続も期待

事例:早稲田大学の一般選抜出願時における「学力の3要素に関する経験」の記入

- ・出願時に高校生活において、学校内外で「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」をもって活動・経験してきたことについて100文字以上500文字以内で入力
- 入力しないと出願手続きが進まない(オンライン出願)
- ・<u>合否判定には用いない</u>(入学後の教育・指導における参考資料)

高大接続改革と並行していた入試改革をめぐ る議論

- ① 実践的な英語力による大学入学者選抜…英語民間四技能検定試験の適切 な利用による入学者選抜
 - ▶大学・学部のAPやCPに基づく合理的な利用方法・基準の採用
 - ▶公平性に対する合理的な配慮(活用試験の範囲、活用方法、適用範囲等)
- ② CBTへの転換(面接から筆記試験での活用へ)
- ③ 入試の公正性を重視する(医学部入試における女性・既卒者差別の是正)
- ④ 自然災害等を理由とした未受験者に対する追試験等の導入
- ⑤ 学習指導要領改訂にどのように対応するか?
 - ▶大学入学共通テストの出題方針・科目構成
 - ▶一般選抜における学力の3要素の組み込み方

英語民間四技能検定試験の適切な利用による 入学者選抜

- ・大学入学共通テストにおける志願者全体に対する民間検定試験導入は事実上不可能
- ・一方で、英語教育の充実は初等・中等・高等教育を通じて20年以上の間優先順位の 高い政策
- 個別大学・学部がAPに基づいて、一定の入学定員を対象に複数の検定試験を活用して選抜を行うことを推奨
 - ・ 2024年度選抜において135大学・短大の434学部・学科で実施
 - 大学入学者選抜における総合的な英語力評価を推進するためのワーキンググループ (2024年1月)「英語資格・検定試験実施団体の取り組み状況について」公表…各検定 試験の現状を確認可能
- 入学後の英語教育と入学者選抜との連携に関する好事例の紹介(2024年6月)

自然災害等を理由とした未受験者に対する追 試験等の導入

- ・従来…受験料返還などで対応
- ・2014年度以降(コロナ禍で本格化)…
- ① 以後実施される選抜試験の振替受験を認める
- ② 事前に大学入学共通テストの一部科目を指定し、その受験を前提として、共通テストの成績で合否を判定する
- ③ 受験料返還(総合型、ないし上記①②が適用できない場合)

現在を確認する 2大学教育改革

高大接続改革前後における大学教育改革議論

- ① 高校から大学への移行に注目
 - ・リメディアル教育から入学前教育へ
 - ・初年次教育の充実
- ② 21世紀型教養教育・学士力・社会人基礎力の獲得
- ③ 内部質保証の観点からのカリキュラム・マネジメント
- ④ 専門教育は大学院で、専門基礎と教養教育は学部で

リメディアル教育から入学前教育へ リメディアル(remedial)教育とは

- 中等教育段階までに習得すべき教科ベースの基礎学力を大学 入学前に履修し、大学での学修を可能にするための学習
- 工学部志望者の物理、医学部志望者の生物、英語・数学・国語等…
- 大学側:学習支援センターなどで対応+大学外プログラムの 利用+ICTの積極活用

リメディアル教育から入学前教育へ 入学前教育とは

- ・主に 年内(12月以前)に合格が決定し入学手続きを終えた生 徒を対象…総合型選抜、学校推薦型選抜
- 合格が決定した後の学習意欲を継続させることが目的
- ・大学側のプログラム + 高校側が大学と連携し必要な指導
- 学校推薦型選抜:合格決定後も、高等学校の指導の下で高大連携による取組

リメディアル教育から入学前教育へ 実際には

- ・ 基礎学力の充実
- ・入学後の学習意欲の喚起(授業外学習への意識付け)
- ・リテンション率向上(留年・中退の防止)
 - 大分大学理工学部:オンライン活用による数学・物理の習得を把握し、 成績や取組状況から「学力」と「学習力」を算出して、入学後につま ずくリスクの高い要フォロー学生を同定し、入学後のクラス編成など に利用

https://between.shinken-ad.co.jp/detail/2024/01/oita-u.html

初年次教育の充実 初年次教育(first year experience)とは

- •「高等学校や他大学からの円滑な移行を図り,学習及び人格的な成長に向け,大学での学問的・社会的な諸経験を成功させるべく,主に新入生を対象に総合的につくられた教育プログラム」
- 「初年次学生が大学生になることを支援するプログラム」 (中教審学士課程答申2008)
- リテンション率向上

初年次教育の充実 初年次教育の実施状況

・初年次教育を実施している大学は98%

- ① スタディ・スキル (ライティング、プレゼンテーション)
- ② スチューデント・スキル (生活面での支援)
- ③ 学問や大学教育全般に対する動機付け
- ④ 自校教育
- ⑤ 論理的思考や問題発見・解決能力向上、リーダーシップ
- ⑥ 大学内の教育資源(図書館等)の活用方法

マス化に伴う 教育内容・ 目的の変化

初年次教育の充実 教育寮・国際寮・初年次全員入寮

- ▶歴史的…世界的にはそもそも学生は学生寮で生活する
 ▶ただし進学率上昇の下で形骸化・一部エリート養成として機能
- ⇒大学の国際化戦略の下で…御茶ノ水女子大学SCC(Student Community Commons)、立命館アジア太平洋大学の登場によって学生寮の初年次学生向け教育機能に注目
 ⇒SGU政策によって国際寮入寮率が指標の一つに
- ▶医学部初年次(基礎・人間)教育としての1年次全寮制も

背景にある大学改革

- ▶IR(Institutional Research)の導入·普及
 - ▶質保証とそのデータに説明…認証評価対応
- ▶教育効果のアセスメントが必須に
 - ▶大学内:想定されているDPがどの程度達成されたかアセスメント・ポリシーに基づく方法(主観的・客観的指標)で確認する(PDCAサイクルによる教育改革 = 教学マネジメントの確立)
 - ▶専門領域:日本学術会議「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準」公表(実際に機能しているかは?)

近い未来を展望する

選抜制度設計のルールから生じる改革

学校推薦型選抜の5割上限ルールは従来から継続 つまり…

- ① 入学定員の5割までは学校推薦型選抜で確保してよい 学校推薦型選抜の改革 → 従来とは異なる大学・考え方での導入へ
- ② 入学定員の5割以上を総合型選抜と一般選抜で充足する総合型選抜の改革 → 探究学習を軸とした総合型選抜へ
 一般選抜(共通テスト含む)の改革 → 何を改革するか?

学校推薦型選抜の展望

- ▶選抜性の高い国立大学で小規模に導入…総合型+共通テスト
 ▶東京大学、京都大学、…
- ▶高大連携の拡大を通じて積極的に利用
 - ▶大学と高校との多様な連携協定による…

- ▶定員充足のための年内入試として大規模に展開
 - ▶一高校あたり複数名、学部自由で指定校推薦を実施する大学も…

総合型選抜の展望

- ▶従来から二極化
 - ▶教科学力以外の学力を重視した選抜 筑波大学、東北大学
 - ▶早期(前年8月に合格決定)+複数回実施(3月実施)で学生確保
- ▶高大接続改革による「探究」 + 基礎学力担保(共通テスト)の選抜
 - ▶早稲田大学地域探究・貢献入試等

- ▶一方で、従来からの学力不問ともいわれる方式も維持
 - ▶入学前教育+初年次教育+学生支援の充実を通じて対応

一般選抜の展望 令和7年度大学入学者選抜実施要項より

第4試験期日等 2

個別学力検査(各大学で実施する一般選抜における学力検査並びに総合型 選抜及び学校推薦型選抜において実施する場合の学力検査)の期日につい ては、次により適宜定める。

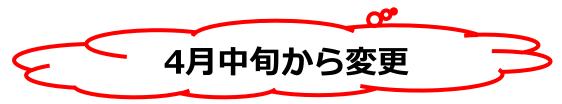
(1) 試験期日 令和7年2月1日から3月25 日までの間

なお、小論文等、プレゼンテーション、口頭試問、実技等の評価方法については、令和7年2月1日よりも前から実施することができるが、高等学校教育に対する影響や入学志願者に対する負担に十分配慮する。

(3) 合格者の決定発表 令和7年3月31日まで

一般選抜の展望 令和7年度大学入学者選抜実施要項より 高大接続改革に基づく変更点

- 第 4 試験期日等 2
- 個別学力検査(各大学で実施する一般選抜) **3月31日から** がに総合 型選抜及び学校推**変更なし 変更** の期日に ついては、次により
- (1) 試験期日 令和7年**2月1日から3月25 日まで**の間
- ・なお、小論文等、プレゼンテーション、口頭試問、実技等の評価方法については、令和7年2月1日よりも前から実施することができるが、高等学校教育に対する影響や入学志願者に対する負担に十分配慮する。
- (3) 合格者の決定発表 令和7年3月31 日まで



一般選抜の展望 大学側のニーズの多様化

- ① 従来通り学部ごとの出題で相対評価によって選抜を行いたい
- ② 基礎学力は学部を越えて共通 = 共通テストや1つの学力検査で複数学部の合否を決定したい
 - ▶早稲田大学は二極化(独自出題にこだわる学部vs共通テスト+aを重 視する学部)
 - ▶私立大学における「全学部統一入試」導入(早慶は未実施)
- ③ 基礎学力(絶対評価)+他の基準で入学者を選抜したい
- ④ 一般選抜(相対評価の学力選抜試験)を年内に実施??

一般選抜の展望 新たな状況におけるジレンマ

- ▶複雑にすると手間暇がかかる
- ▶単純化すると相対評価に依拠せざるを得ない
- → 共通テスト改革(CBT、複数回、複数段階実施、実施時期の前倒し、成績の段階表示の積極活用方策の検討)などが改めて議論に?
- ▶一方で、高校・生徒・保護者の学力試験(共通テスト)回避が進むと高校教育の質保証問題(何が保証されれば高卒なのか)が改めて問われる可能性も?

高校の先生方へのお願い

入学後の教育は大学が責任を負います。その前に必要な教育は高校 の先生方にお任せするしかありません。

卒業生の将来・キャリアを見据えた進路指導・キャリア指導を引き 続きお願いします。

ご清聴ありがとうございました。

沖 清豪(okikiyo@waseda.jp)